

報告タイトル	共有されることば・集中することば—石垣島川平における2つの「神口」
報告者所属名	日本歴史研究専攻
報告者氏名	澤井 真代
1. 本研究の目的・先行研究 ・儀礼の場におけることば(歌、唱え言、発話)についての民俗誌的研究 ・先行研究…文学研究、民俗学、社会/文化人類学 2. 調査地の概要 ・川平^{かびら}…日本列島の南西端に位置する八重山諸島(沖縄県)の1島嶼、石垣島の北西部、川平半島に位置。369世帯741人(2006年12月末現在)。農業(サトウキビ、米、パッションフルーツ、肉用牛等)、観光業、食品加工業、黒真珠養殖等が営まれる。 ・4つの拝所…儀礼を行なう主な場、「オン(御嶽)」。それぞれに神役組織が所属。 ・26の年中儀礼…「節祭」(旧暦9～10月)→播種儀礼→生育儀礼→風害・虫害等の災厄除け儀礼→作物の初上げ儀礼→収穫感謝儀礼「豊年祭」「結願祭」→「節祭」…／健康祈願儀礼 ・2つのカンフツ(神口) ①年間の儀礼(25/26回)を通して女性神役「ツカサ」から神に向けて唱えられるカンフツ ②1年に1度、節祭において、来訪神「マユンガナシ」から人々に向けて唱えられるカンフツ 3. 共有されることば—マユンガナシのカンフツ ・先行研究…「秘儀的な」、「伝承が成員のみに厳しく限られた」、「神が発することばとしての」、カンフツ。⇔カンフツを担う人々が実際にどのようなものであるかという視点 ・習得過程…成員のみに限られる：人々に「神のことば」として受けとめられるための秘儀性 ・唱えられる場 ①当主=元成員とのカンフツをめぐるやりとり…カンフツへの「返事」、 饗応の場における神への話しかけ：カンフツを引用 ②それ以外の家族…マユンガナシと当主のやりとりを見守る カンフツを「じっと」聞き、覚える子ども ・日常における伝承 「子どもの頃、両親が畑仕事で遅くなる日、祖父母の家に行って面倒を見てもらい、祖父の膝の上でカンフツを教わった」 →人に向かって唱えられるカンフツの「拡散性」：各人なりの受けとめ方 カンフツをゆるやかに共有する人々に向けて、カンフツを唱える：儀礼が成り立つ 4. 集中することば—ツカサのカンフツ ・「見えにくい」「聞こえない」ことば ①儀礼の場…オン内のツカサのみが入ることのできる空間「イビ」において、小さい声で唱える ②習得過程…カンフツ習得の場には徹底して他者を入れない →ツカサのみが管掌することば ・構成と内容を知る手がかり ①「カンフツツラシ」…ツカサ4人での定期的練習→定まった内容と形式 ②「麦豆の初上げ」儀礼におけるカンフツ…麦・豆を作らなくなってからは、その成り行きを神に報告→儀礼目的や集落の生活に具体的に沿う内容 ・形式を変えないことよりも、神に意味を伝えることが重視されることばとしてのカンフツ 5. おわりに 1集落における「ことば」のあり方→地域を越えた比較研究	